

2019年度 第2回地域社会連携本部会議 議事要旨

開催日時：令和元年10月29日（火）16：35～17：35

開催場所：東京・世田谷キャンパス 教育研究棟2街区2503大会議室

出席者（敬称略）

荒木義昭（世田谷区スポーツ推進課 スポーツ・障害者スポーツ推進担当係長）

※須藤剛志 世田谷区スポーツ推進部 スポーツ推進課長 代理

小野道子（公益財団法人世田谷区スポーツ振興財団 管理課長）

中川 謙（青葉区区政推進課 企画調整係長）

※鈴木康介 横浜市青葉区 総務部 区政推進課長 代理

矢部寛和（公益財団法人横浜市体育協会 地域スポーツ課長）

※森田尚隆 公益財団法人横浜市体育協会 地域スポーツ振興部長 代理

荻 浩三（社会貢献推進機構 教育開発担当）

中里浩一（社会貢献推進機構 研究開発担当）

白旗和也（スポーツ・プロモーション・オフィス オフィスディレクター）

欠席

守屋喜代司（横浜市市民局 スポーツ振興部 スポーツ振興課長）

佐野昌行（社会貢献推進機構 連携推進担当）

事務局

石井砂織（スポーツ・プロモーション・オフィス アシスタントオフィスディレクター）

塚田直彦（スポーツ・プロモーション・オフィス 主任）

資料

2019年度第1回地域社会連携本部会議議事要旨

資料1 2019年度社会貢献事業報告書

資料2 社会貢献推進機構機関誌「T-Lion Voice Home 第9号」

資料3 広報用チラシ

資料4 令和2年度 公開講座募集要領（案）

資料5 社会貢献推進活動にかかる事業スケジュール等について

参考資料 「日本体育大学公開講座規則」

議事

開会に先立ち、石井アシスタントオフィスディレクターより、前回議事要旨の確認がおこなわれ、代理出席を含めた出席者の紹介がなされた後、地域社会連携本部規則の第5条に基づき、過半数の出席をもって本会成立が宣言された。

はじめに、白旗オフィスディレクターからの挨拶があり、その後、今年度第一回の会議で互選された荻浩三（教育開発担当）議長より議事が進行された。

1. 報告事項

(1) 2019年度上半期事業報告について

石井アシスタントオフィスディレクターより、資料1および資料2に基づき、令和元年1月から9月までに実施が終了している活動について報告がなされた。主に社会貢献事業依頼書に基づく学生ボランティア派遣やスポーツ・プロモーション・オフィスが主管する公開講座、社会貢献推進機構が実施した会議の議題等について説明された。なお、報告書内で参加人数が記載されていないものは現在まで依

頼元等からの報告がなされていないもので追って確認していくと補足説明された。

(2) 2019年度下半期事業計画について

石井アシスタントオフィサーより、資料 3 に基づき、上半期から引き続き開催を予定している公開講座が説明された。また公開講座以外では「防災訓練」「体力測定」「日体大スポーツフェスタ」等が主な事業となるが、10月12日に予定していた「防災訓練」は、台風19号接近に伴い中止となった旨報告がされた。

「体力測定」は、すでに東京・世田谷キャンパスで10月19日・20日に実施し、初日は雨天ながらも2日間で約250名もの参加があった。このあと、11月1～3日の日体フェスティバル期間中に横浜・健志台キャンパスでも実施し、11月2日・3日にはこどもの体力測定も予定していることが報告された。

また、「日体大スポーツフェスタ」は、2018年の内容を踏襲して実施予定であり、現在11月30日に東京・世田谷キャンパス、12月7日には横浜・健志台キャンパスでの開催にむけて準備を進めていると報告があった。なお、今年度は、スポーツ文化学部で開講している授業「地域スポーツ演習」の一環として、履修学生を準備から当日の運営まで、スタッフとして参加させる取り組みを始めており、実施種目等詳細が決まり次第、参加者を募集していく。

その他、2月には、世田谷区との連携で、災害ボランティアマッチングコーディネーター養成講座、ならびに福祉避難所(母子)の図上訓練及び避難ルート確認等実施を予定していることが報告された。

<意見交換等>

- ・今回は天候により実施できなかったが防災訓練は地域住民も非常に楽しみにしている。救急救命ができる学生を訓練現場で見ることが出来るのは、地域にとって大きな安心である。また、実演会の地域招待枠を設けて頂けることも非常に有り難く、地域住民も楽しみにしている。
- ・今後の体力測定に加えて、高齢者向け講座等も引き続き実施願いたい。
- ・教育委員会からも部活動指導や大会引率者などの人員が不足していると言われており、その対策として行政でも指導者の登録制度を設けて支援者を募っているとのこと。学生にも是非登録いただき支援願いたい。
- ・本学が体育・スポーツの王道を自負するのであれば、是非積極的に取り組んでいきたい。
- ・部活動の在り方は過渡期を迎えている。今後大学としても対応を検討すべきである。
- ・教員と学生の資源が活動に良く反映されている。しかし実際に活動に参加する人材の数を表す「人材バンク」が強化されているのかは解りにくい。
- ・人材バンクの登録者数は、オリエンテーション等で各教員から説明されていることもあり、増加傾向にある。授業でもお話いただいている。また、ボランティアの情報は全学生に概要を配信することで登録者数の増加を目指している。新学部は完成年度を迎えておらず3～4年生の上級学年がない。完成年度を迎え上級生が増えれば、相対的に増加することが見込まれる。ただしマッチングの問題もあるため、今後の推移をもって慎重に判断したい。
- ・これだけの規模の体力測定を無料で実施する取り組みは高く評価できる。その他、貴学に希望するものとしては、体育・スポーツ指導者ためのレベルアップ講習会などの実施が期待される。
- ・コーチングエクセレンスセンターでの取組みにある。近い将来、この点は社会的な課題とも成り得るものである。
- ・世田谷区ではスポーツ施設数が少ない上に、今回の台風で多摩川の川沿いに甚大な被害が生じ、スポーツ施設でも一定期間使用することが困難となっている。あくまで学生さんの安全

確保が第一義となるが、多摩川河川敷の復旧に向けたボランティアなどにも協力願いたい。

- ・大学としては是非協力させていただきたい。具体的な取り組み内容はスポーツ・プロモーション・オフィスと調整願う。
 - ・体力測定は実施サイドの現状として、好評をいただき人気があるため、参加者皆様を時間内に対応しきれない程である。今後、大学外でのサテライト会場対応なども検討したい。
- また、測定結果のデータをもとに新しい知見を組み込んだ教育的な講座を考えていきたい。事前レクチャー、事後のデータ解説をしていく講座も実施することは可能である。是非ご意見いただきたい。

2. 審議事項

(1) 2020年度公開講座について

石井アシスタントオフィスマネージャーより、資料4および参考資料に基づき、次年度の公開講座募集要領(案)について以下のとおり説明がなされた。

2018年の第2期スポーツ基本計画の策定に基づき、本学の社会貢献活動のメインフィールドとしている世田谷区および青葉区を中心とした横浜市でも、スポーツ推進計画が設定されている。これらのスポーツ推進計画は、地域における体育・スポーツに関する諸課題が反映されたものであり、社会貢献推進機構としては、この諸課題解決に資する公開講座の実施が、地域における体育・スポーツに関する課題解決の一助となることと理解している。このことを踏まえて、令和2年度における公開講座応募要領を運営戦略会議の議を経て、資料4のとおり設定し、公開講座企画の公募を行いたい。なお、備考欄には今年度実施を検討する上で課題となった点を補完するものとして追記している。

<意見・質問等>

- ・これまでは単発の講座が多い。複数のシリーズで開催する講座があれば地域のコミュニティ作りに大きく寄与できるかと思われる
 - ・貴学の公開講座はリピーターが多いという点からも地域住民が繋がりやすい。反面、すでに出来上がったコミュニティが存在する場合、初回参加へのハードルが高くなると思われる
 - ・実際、行政が実施している12回1クルールの講座などでは。毎回同じ人が参加している。
- また、子どものイベントを実施する上では、まずは体験会などを実施することで参加者確保の目安となる。
- ・行政やイベントが継続的に実施している講座では30年間のリピーターもいらっしゃる。人気のある講座をどの位継続するは非常に難しい問題であると言える。新規参加者を増やそうとした場合は、新規参加がしやすい同様の講座を設定するなどの差別化が必要であろう。
 - ・本学としてはまずは出来るところから実施しているが、そろそろ次のステップも検討したい。
 - ・これまでの講座のアドバンスコースを設定しても良いのではないか。
 - ・地域のコミュニティ作りや、講座のステップアップなどで参考となりそうなものが、「筋トレのすすめ」および「有酸素運動のすすめ」から「筋トレ塾」への参加である。
- また、リピーターという点ではエアロビ教室もいわゆる常連さんが出来上がりつつある
- ・地域の皆さんは高度な専門的なものは求めているのだろうか。知識を得ることのできる講座はどうだろうか。
 - ・参加者が多い講座も良いかと思うが、高度な専門的知識を得ることの出来る「少数精鋭」の講座もニーズがあると思う。その分受講料が高額になることにも一定の理解はある
 - ・特に子ども対象とした短期集中プログラムも非常に人気は高い。子どもの逆上がり講座など
 - ・青葉区はいわゆる意識の高い住民が多い。高度に専門的な講座であってもニーズに合致すれば良い講座ができる可能性はある。しかし、これが直接参加人数増加に繋がるかは難しく課題でも

ある。

- ・いただいた意見を実験的に講座として実施することも検討していきたい。

これらの意見交換がなされた後、次年度の公開講座募集要領案については全会一致で承認された。

(2) 2020年度事業計画策定に向けて

石井アシスタントオフィスマネージャーより、資料5に基づき2020年度事業計画策定にかかる今後(2019年と2020年)の事業スケジュール案について以下のとおり説明がなされた。

2019年12月に社会貢献活動委員会および運営戦略会議で公募した公開講座案の採択を決定します。また自己点検評価にかかる新たな指標を設定し、これをもとに2020年1月に自己点検・評価を実施、この結果を2月の外部評価委員会で点検・評価いただく予定としたい。

これまででは、次年度の「事業展開」を当年秋頃実施の運営戦略会議に諮り、翌年2月～3月に「事業方針・事業計画」を運営戦略会議で策定し、同時期に外部評価委員会が並行してあり、次年度が始まった以降の地域社会連携本部会議にて、当該年度の「事業方針・事業計画」が決まる状況であった。

これに対し、外部評価委員会の評価報告においても、評価委員会が報告した評価内容を踏まえ、次年度の事業方針や事業展開、年次計画をしっかりと議論した上で、社会貢献活動が展開できるような組織体制になっているか、再度検証する必要があると指摘されている。

これらのことを勘案し、社会貢献推進機構の事業スケジュールを見直し、次年度の事業計画策定にかかるプロセスの再設計を行いたい。なお、連携本部会議構成員の皆様方の多くが4月に人事異動も生じ、ご多忙であることは承知しておりますが、本件の趣旨を踏まえ、事業スケジュールの変更についてご理解を賜りたく存じます。

<意見等>

- ・横浜では年度末となる3月末での会議参加は難しい。3月の前半もしくは中頃であれば可能である。
- ・異動等で担当者が変更された場合でも、年度内にコミュニケーションをとったことがしっかり反映した計画となっていれば大きな問題も生じないのではないかと
- ・本機構も5年サイクルで次のステップを踏めるように構造的改革を行っている点をご理解いただきたくご協力願いたい。
- ・異動等での影響が生じないよう事業計画策定にかかる趣旨が、後任者にはしっかり伝わるように確認していきたい。
- ・世田谷では区議会が3月にあることから3月上旬を外したスケジュールとして頂きたい。
- ・早期に調整することで、少なくとも最大公約数で会議を実施するようにしたい。
- ・青葉区では3月中旬から20日前後までが都合が良いかと思われる
- ・3月に行う際には、やはり早期調整でのスケジュール設計としたい。

これらの意見交換がなされた後、提案については全会一致で承認された。

3. 連絡事項

最後に石井アシスタントオフィスマネージャーより、先ほどの審議結果を踏まえ、次回会議を3月中旬までに開催したく、事前に日程調整を行って決定・ご連絡することが確認され、会議は終了した。

以上